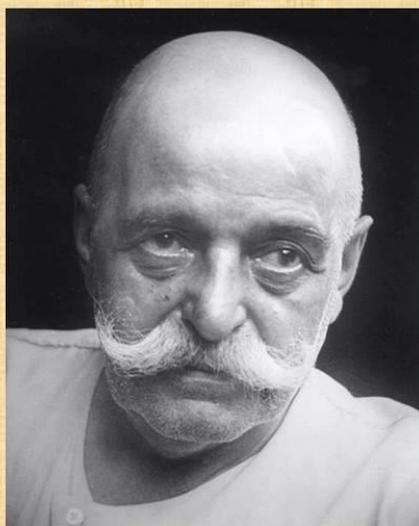


チェコヴィッチの回想録  
ゲルジェフ氏の思い出

SOUVENIRS SUR GEORGII  
IVANOVITCH GURDJIEFF

Tchesslav Tchechovitch



第三編

公正な人の試練、パリでの晩年  
死を越える絆 ほか

(一九二四年～一九四九年)

郷 尚文 訳

1921年の出会いより、コンスタンチノーブルからフランス、アメリカに至るまでゲルジェフと行動を共にし、28年にわたり親密な関わりを維持したチェスラヴ・チェコヴィッチの回想録。第三編には1924年の自動車事故後の試練の日々と晩年のパリでの逸話、ゲルジェフの家族をめぐる秘話、英訳版には含まれないチェコヴィッチ自身をめぐる驚くべきストーリーを収録。

分量：約7万字（単行本換算約110ページ）

目次

I 公正な人の試練

見事な懲らしめ

見事な許し

公正な人に対する隣人たちのふるまい

II パリのアパルトマンにて

助けられる資格

戦争における人間のふるまい

腹痛に対する処方

ゲルジェフ氏の日課

ゲルジェフ氏の余計な労働

パリで聞いたモスクワでの話

最後の乾杯

III 四人の女たち

ゲルジェフ氏の妹 ソフィア

ゲルジェフ氏の妻 ユリア・オシポヴナ

ゲルジェフ氏の母 バブーシュカ

ジャンヌ・ド・ザルツマン

IV 私自身に関すること

私の生涯と夢

ある夢のこと

死を越える絆

V EN ROUTE道なかば

Amazonストア

自分は自分の信念に従って行動している。私は自分についてそのように思い、それに偽りはなかったが、私は自分の信念を真理と取り違えていた。そんなことに無自覚なまま、私はグルジェフ氏の家に押しかけた。信念のままに行動する自分のなかに私は邪心というものを見つけることがなかったので、自分にはグルジェフ氏についていく資格がないなんてことは、そのときには思わなかった……。

グルジェフ氏は意外なときに私にやさしくするかと思えば、意外なときに私を冷たくあしらった。いずれの場合も、わけがわからない。どうして私にそんな態度を？

私になんらかの落ち度があったとして、わざとしたことではない。私がなにか誤解しているなら、説明してもらわなければならない。冷たくあしらわれるいわれはない。

いまようやく私はこうしたことを振り返り、そのわけを察することができるようになった……。

(「死を越える絆」より抜粋)

#### [解説]

本編でとくに注目に値するのは、チェコヴィッチがグルジェフとの関係において味わった個人的な試練を隠すことなく物語り、そうするなかで、一見して不可解または理不尽と思える師のふるまいの背後にある一貫した意図を単純平明に語った部分である。

これはハートマン、ウスペンスキーといったグルジェフのもとを去っていった元生徒たちがみずからの試練の具体的な中身を語らずに済ませているのと対照的であり、その点において本編は、去った者たちと踏み留まった者たち、その間にある決定的な違いを明らかにする。某団体の添削を受けた英訳版で全面的に削除されたこの肝要な部分を本編では仏語版から補った。



グルジェフ氏の弟がなくなったときも、グルジェフ氏の妻で、ユリア・オシポヴナがなくなったときも、われわれがバブーシュカと呼んで慕っていたグルジェフ氏の母がなくなったときも、グルジェフ氏の活動やその生徒たちの取り組みは一日たりとも中断されなかった。グルジェフ氏が死んだときも、彼の生徒たちは、課題への取り組みや各種の活動を一時間たりとも中断しなかった。

洪水、地すべり、大火、火山の噴火といった災害のさなかで人命の救助にあたる者たちのように、完全に状況に打ち克つたといえるまでは、一名の仲間を失ってもひとつ溜息をつくだけ、うまく一難を切り抜けられてもかすかに微笑むだけで済ませなければならない。

何のためにそんなことを？ どうしてそんなに急ぐのか？ どんな火山が噴火しているのか？ だれが脅かされているのか？ 火はなにを燃やし尽くそうとしているのか？ 洪水は何を押し流そうとしているのか？

この問いかけに答えることは、グルジェフ氏が人類のなかにおいて為したことを宇宙的文脈で理解することにつながる。

(EN ROUTE 道なかばより)

